

がんセンターNEWS

Aichi Cancer Center News

第44号

平成25年5月発行

発行

愛知県がんセンター

Tel. 052-762-6111(代)

麻酔科部長就任のあいさつ

本年4月より麻酔科部長を拝命しました仲田純也です。昭和39年以來の伝統と実績、そして高い技術を持ち、患者さんから強く支持されている愛知県がんセンターにおいて、責任ある立場になることは、喜びであるとともに身の引き締まる思いです。麻酔科医は他科の医師や看護師と協力し、手術が円滑かつ安全に行われ、痛みが少なくなるよう手を尽くし、チーム医療の一員としての役割を担っています。今後も、安心して、安全な治療を、苦痛が少ない形で受けて頂けるよう、さらに努めて参ります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



麻酔科部長

仲田 純也

緩和ケア部長就任のあいさつ

本年4月より緩和ケア部長を拝命しました精神腫瘍診療科の小森康永です。「小さな森で、健康で永生き」という両親の願ひはともかく、本院は伝統ある「大きな森」でありますので、患者さんやそのご家族、および本院職員の期待に応えるためには相当に邁進せねばならぬと身の引き締まる思いであります。

ご存知のように緩和ケアは、がん患者さんの「からだの痛み」と「こころの痛み」を緩和することがその使命だと言われます。しかし、これらの痛みのない患者さんなどいようはずもありません。患者さんの誰しにも緩和ケアが必要であるにも拘らず、緩和ケアチームのメンバーが直にお会いできる方々はごく限られています。よって、本院全職員の緩和ケアの力が増進することこそ、緩和ケア部の存在意義でしょう。その実現には、共に緩和ケアを一例一例ていねいに実践することがもっとも大切だと考えます。今後とも、皆さんのご協力を是非ともお願ひ申し上げます。



緩和ケア部長

小森 康永

研究所長退任のあいさつ

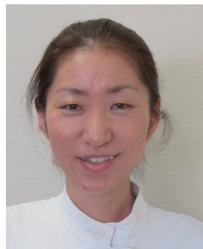
当センターは東海地域の有識者の高邁な発想により1964年(48年前)に創設され、今日まで国内外を代表する総合がんセンターとしてがん医療に大きく貢献してきました。私は発足後14年目の1977年から病理学の研修生として当センターにお世話になり、その後、疫学・予防研究者として36年以上に亘って務めることができました。その間、豊かな県財政による良き時代から経済不況による組織改編など辛酸な経験を経て、今日の定年退職を迎えることになりました。その間、確信しておりましたことは、当研究所が中央病院と協働しながら国内外に誇れる斬新ながん研究を進展させて来たことであります。私は今年度から三重大学で研究を続けることとなりますが、当研究所ががん研究に対する高い見識を持った指導者のもと、がんセンターの発展にますます貢献されますことを期待し、一歩引きながら応援して参りたいと思います。愛知県のみなさまには長年お世話になりまして心より感謝いたします。



研究所名誉所長

田島 和雄

新任医師の紹介



放射線治療部
牧田 智誉子

3月まで福島県にあります南東北病院で放射線治療医として勤務し、化学療法を含む包括的ながんの治癒をめざした放射線治療を行ってまいりました。4月からがんセンターの放射線治療部で勤務することになりました。当院の基本理念にありますように、患者さんの立場にたち、最先端の研究結果と根拠に基づいた最良のがん医療を提供できるよう最大限努力してまいりますので何卒よろしくお願い申し上げます。



内視鏡部
石原 誠

平成25年4月1日付けで名古屋大学医学部附属病院より赴任してまいりました。消化管内視鏡診断・治療を専門としております。正確な診断、安全で質の高い内視鏡治療ができるよう常に心がけています。どうぞよろしくお願いいたします。



消化器外科部
川合 亮佑

愛知県がんセンターシニアレジデントでの研修を経て着任いたしました。食道癌の外科治療を専門としております。従来の開胸手術から胸腔鏡手術(侵襲の少ない手術)まで、患者さん一人一人に合った最善の治療を提供できるよう努力して参ります。どうぞ宜しくお願い致します。



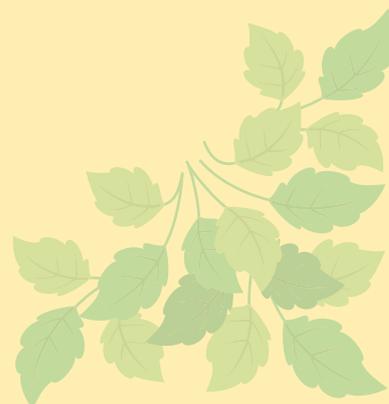
呼吸器外科部
水野 鉄也

国立がんセンター東病院の研修を経て名古屋大学医学部附属病院より赴任いたしました。肺癌をはじめとした胸部悪性腫瘍の外科治療を専門としております。個々の方に最善の治療を提供し、必要に応じて化学療法(抗癌剤治療)、放射線治療を組み合わせたチーム医療に努めて参ります。



麻酔科部
横川 清

患者さんによりよい周術期環境を提供させていただくように努めて参ります。よろしくお願い申し上げます。



電子カルテ完全導入のお知らせ

本年1月15日当院もやっと電子カルテが導入されました。1964年12月の開院以来紙カルテで全ての患者情報を管理していましたが、時代の流れと共にIT化が進み、オーダーリングシステムから画像保存、そして今回の完全ペーパーレス化による電子カルテ完全導入へと進んでまいりました。紙カルテが外来・病棟になくなったことで、スペースが広く感じられます。また端末と呼ばれる回線で繋がった院内のコンピューターがあるところでは、全ての患者さんの情報を瞬時に知ることができることで、検査結果や患者さんの容態に合わせて指示を変更したりすることも非常に便利になりました。受診時、患者さん自身でやっていただくことは特に大きな変わりはありません。今まで通りの外来診察を受けて頂けます。外来では目の前のモニターで検査した画像の写真や病理結果の所見などを、医師と一緒に見ることもできるようになりました。

カルテが電子化されたことで、今後も大きな発展が期待されています。院内の様々な患者情報が一元管理されたことで、今後は外部とIT環境下に繋がるのが可能になってきました。国が勧めている「どこでもMy病院」構想は、院外の開業医さんや他の病院とIT化された医療ネットワーク構築によって可能になります。また大災害に備えて患者情報管理をネットワークで共有することが求められています。当院もやっと、その準備が整ったところです。

当然、患者さんの個人情報の流出がないように、何重ものセキュリティーで管理には万全を期しています。今後は患者さんの利便性に答える病院を目指して、更にIT化を進めていく予定です。

最後に、現在導入から3カ月が過ぎたところですが、未だシステムの変更に職員が慣れていない面もあり、皆様方にご迷惑をおかけしている点は、お詫び申し上げます。



電子カルテ導入準備委員会 委員長
副院長兼乳腺科部長

岩田 広治

ようこそ!がん患者サロンへ

平成25年1月から愛知県がんセンター中央病院、国際医学交流センターロビーにてがん患者サロンを開催しています。

当院のがん患者サロンは、がん看護の豊富な知識を持つ専門看護師、認定看護師がスタッフとなり運営していますので、がん体験者の経験、思いを分かち合う交流の場としてだけではなく患者さん・ご家族から看護師への相談の場としてもご利用いただけます。

また、サロン開催時間内に専門看護師や認定看護師による「サロンdeセミナー」という30分のミニレクチャーを行っています。これは、『患者さんが体験される困難な症状をどのようにご自身で対処できるか』という視点で、毎回テーマを替えて『ちょっとした生活の技』を御持ち帰りいただける、がんセンターオリジナルの企画です。

お茶を飲みながら、ゆっくり過ごしていただけるようソファの談話スペースも設けています。外来診察の待ち時間、外来化学療法待ち時間、入院患者さんやご家族、もちろんサロンを目的に来院して下さる方も大歓迎です。事前申し込みや参加手続きは不要です。どなたでもご利用いただけますので、ぜひご利用ください。



がん患者サロン：毎月第1・3木曜日
13：00～15：00

サロンdeセミナー：サロン開催中の13：30～14：00
場所：外来棟1階 国際医学交流センターロビー

新型マルチスライスCT装置を導入しました ～低侵襲で診断能の高い画像を目指して～ 放射線診断・IVR部

平成25年2月に導入されたマルチスライスCT装置は、80列に並んだ検出器を有し、従来の8列CT装置(以下、従来装置)に比べて10倍の検出器を備えており、広範囲を短時間で撮影できるとともに、被ばく線量も低減することができるようになりました。

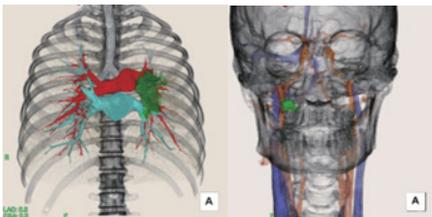
<高速撮影>



従来装置では、胸部から骨盤までの撮影では20秒以上息止めが必要でしたが、新装置では高速撮影により5～10秒以内で撮影ができるため、しっかり息止めされた高精細画像が広範囲で撮影でき、診断能の高い画像を提供できるようになりました。

また、CT本体の開口径が広くなり、圧迫感の軽減・アクセスの向上と体位に依存しない柔軟な検査が行えるようになりました。

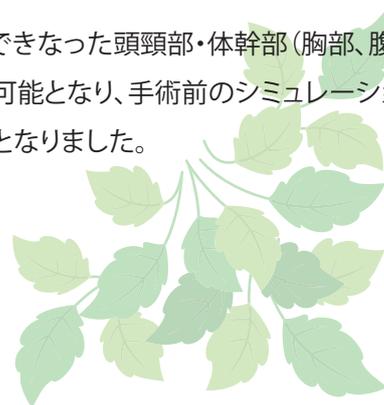
<3D画像の臨床例>



従来装置では、撮影に時間がかかり対応できなかった頭頸部・体幹部(胸部、腹部)の細かい血管や腫瘍の3D画像構築も可能となり、手術前のシミュレーション画像等、先進の画像診断への対応が可能となりました。

<被ばく線量の低減>

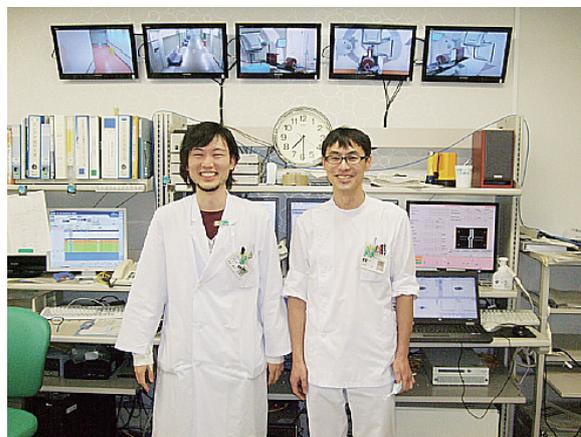
撮影部位により異なりますが、従来装置に比べて同じ範囲を撮影した場合、短時間撮影と低線量撮影技術により被ばく線量がおおよそ1/2～2/3程度になりました。



◆スタッフの紹介 中央病院～放射線治療部～

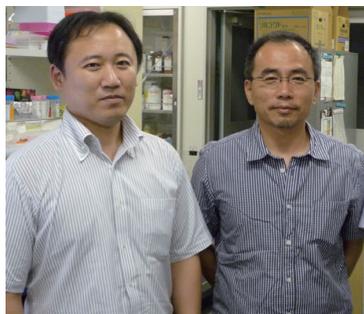
平成24年7月から更新された高精度リニアック装置の治療が始まりました。高精度治療は、従来よりも細かく複雑な機器管理が要求されます。安全で正確な“照射”のためには、装置が期待した通りの動作をするように日頃の点検がとても重要になります。高精度装置の点検には多くの時間と専門的な技術・知識を必要とします。このように高精度化する放射線治療の安全と品質を確保するために医学物理士資格が設けられ、全国の多くの施設で活躍しています。

当部にはこの資格を持つ放射線技師が2名在籍し、リニアックなど様々な装置の安全管理を実施しています。



左から清水物理士、吉本物理士

「がんの基礎病理学研究と新しい制がんのための医療技術」 研究所～腫瘍病理学部～



斎藤憲研究員(左)、近藤英作部長(右)

わたしたち腫瘍病理学部では、がんの基礎研究と臨床応用への流れを視野に入れ、ヒトがん細胞や実際の患者さんの腫瘍組織における病理学的解析(腫瘍の発生や増殖・転移にかかわる異常の洗い出し)と、これら研究の発見を活か

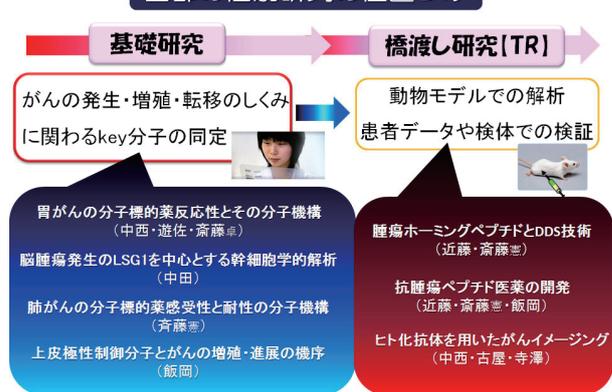


平成24年7月19日報道資料

すような新しいがんの医療技術の開発をめざした研究の両者を進めています。基礎研究としては、たとえば、抗がん剤が効きにくいがんにおいて細胞の中でどのような

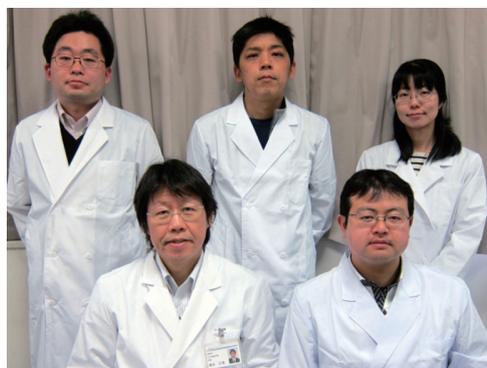
特徴的な変化が起こっているのかを分子レベルで探索したり、がんが転移を起こす時にそれらの細胞が獲得する新たな性質を見つける、また、増殖するがんの母細胞(がん幹細胞といいます)のマーカーの研究などを行っています。一方、新しい医療技術の開発研究では、ペプチドを用いて体の中に発生するがんの発見技術や、ペプチド自身あるいは様々な抗がん薬剤との組み合わせを考えたがん治療法の研究、また血液中のごく少数のがん細胞をとらえる技術などの研究を進めています。ペプチドは、今日さまざまな健康食品や飲料に採り入れられているように「ひとのからだにやさしい」ことが知られており、医学の分野でも次世代の医療の担い手として大きく注目されていますが、現状では医療におけるペプチドそのものの応用は未だごく一部の領域に限られています。わたしたちはこれらの研究を両輪として、よりよい検査や治療を一刻も早く患者さんにお届けできるよう、一同力を合わせて日々頑張っています。

当部の個別研究の位置づけ



◆研究員の紹介 研究所～分子病態学部～

がんは、我々の体を構成する細胞に遺伝子レベルでの異常が積み重なってできます。分子病態学部では、がんが体の中でどのように発生し、さらに悪性化して転移するようになるかを、大腸がんを自然に発症する遺伝子改変マウスを用いて研究しています。がんの発生・悪性化の過程で重要な役割を果たすタンパクを探し出し、それらの働きを抑えるような薬を見つけることによって、新しいがん治療法の開発に結びつけることを目指しています。



前列左から:青木正博部長、藤下晃章研究員 後列左から:佐久間圭一朗主任研究員、小島康主任研究員、梶野リ工研究員

血液がんの治療は大きく進歩しています 中央病院－血液・細胞療法部－

血液がんには白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などさまざまな疾患があります。白血病は血液を作るおもとの細胞である造血幹細胞が悪性化したもの、悪性リンパ腫は白血球の一種であるリンパ球がリンパ節やリンパ組織で悪性化したもの、多発性骨髄腫は抗体を作る形質細胞が悪性化したものです。血液がんは薬物療法（化学療法や分子標的治療薬など）、骨髄移植や末梢血幹細胞移植などの造血細胞移植治療、放射線治療などの進歩によって多くの患者さんにおいて治癒や延命が期待できるようになりました。たとえばB細胞リンパ腫に対する抗CD20モノクローナル抗体治療薬のリツキサンや慢性骨髄性白血病に対する分子標的治療であるグリベックによってこれら疾患に対する治療成績は飛躍的に向上しました。予後不良な



血液細胞療法部長
木下 朝博

血液がんの種類

<p>白血病</p> <p>造血幹細胞が悪性化したもの</p> <p>急性骨髄性白血病 慢性骨髄性白血病 急性リンパ性白血病</p> <p>腫瘍を形成せず、末梢血や骨髄に浸潤する</p>	<p>悪性リンパ腫</p> <p>リンパ球がリンパ節やリンパ組織で悪性化したもの</p> <p>ホジキンリンパ腫 非ホジキンリンパ腫</p> <p>リンパ節やリンパ節外の組織に腫瘍を形成する</p>	<p>多発性骨髄腫</p> <p>形質細胞が悪性化したもの</p> <p>形質細胞 腫瘍細胞</p> <p>形質細胞が腫瘍細胞化し、病的骨折などを起こす</p>
--	--	---

タイプの白血病など難治性血液がんに対しては同種造血幹細胞移植がその治療成績を大きく改善しています。また多発性骨髄腫や再発・高リスク悪性リンパ腫に対しては自己末梢血幹細胞移植によって治療成績が向上しました。血液・細胞療法部ではさまざまな病状の患者様にもっとも適した高度で最先端の治療を提供してまいります。

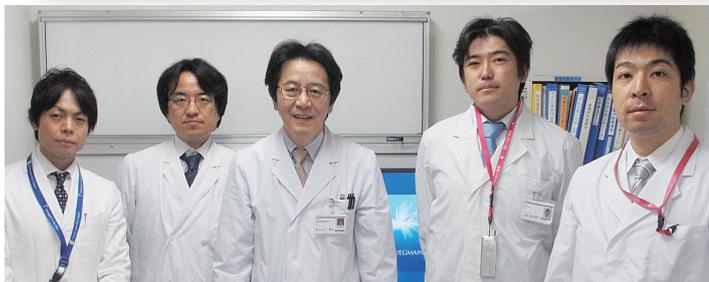
◆診療医の紹介 中央病院 ～消化器内科部～

消化器内科部はレジデントも含め約10名の医師で、主に膵・胆道がんの診断および内科的治療（内視鏡処置、抗がん剤治療）を担当しています。従来、CTなどの画像のみで診断されることが多かったこれらのがんに対し、積極的に生検診断を導入し、最新・最良の治療法を提案しています。黄疸や消化管狭窄の治療には最先端の内視鏡処置を行うとともに、進行した患者さんにはガイドラインに沿った適切な抗がん剤治療も行っています。



前列左から：今岡大医長、原和生医長、山雄健次部長、水野伸匡医長、
脇岡範医長
後列左から：関根匡成医師、坂本康成医師、與儀竜治医師、
永塩美邦医師、佐藤高光医師、藤吉俊尚医師
最後列中央：堤栄治医師

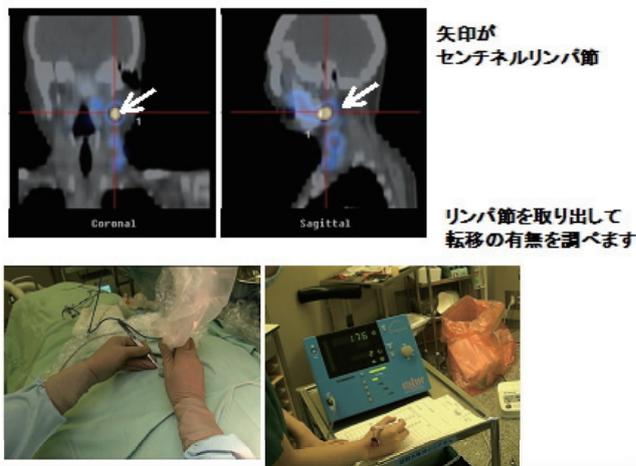
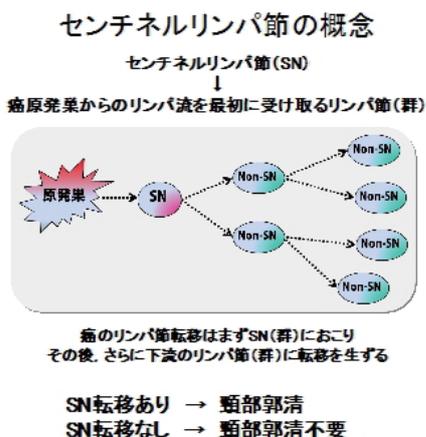
頭頸部がんのセンチネルリンパ節ナビゲーション手術 中央病院～頭頸部外科部～



頭頸部外科部スタッフ

リンパ節転移のない早期口腔がんにおいても、画像診断検査(CTスキャンなど)で検出できない微小な転移が約3割に存在します。これに対しあらかじめ首のリンパ節をまとめて取り除く手術(頸部郭清術)は効果も高く推奨される方法ですが、7割には不要かもしれない手術です。また頸部郭清術によって手術創を生じ、一時的な上肢の運動障害などを起こす可能性があります。これ

らを解決するのがセンチネルリンパ節ナビゲーション手術です。センチネルリンパ節とは癌原発巣からのリンパ流を最初に受け取るリンパ節のことで、ここに転移があるかないかで頸部郭清術の必要性を判定します。センチネルリンパ節ナビゲーション手術はさらに1)予想外の位置に転移がないか、2)正中寄りの病変では反対側の頸部郭清をどうするか判断材料を与えるため、必要な手術の範囲はオーダーメイドで決定されます。この方法は頭頸部がん領域で認められつつありますが保険収載されておらず、現段階では多施設での臨床試験という形で行っています。この試験では頸部郭清術を行う方法とセンチネルリンパ節ナビゲーション手術を行う方法のどちらかが割り当てられます。治療成績は同等で、身体への負担の少ない治療がセンチネルリンパ節ナビゲーション手術だと考えられています。



◆診療医の紹介 中央病院～形成外科部～

がんの治療では手術による根治性が求められますが、それと同時に手術後の生活の質(QOL)の維持や社会復帰が求められます。

形成外科部では、舌がんなどの頭頸部癌切除後の食事や会話などの機能をなるべく維持するための再建術や、乳癌治療による変形してしまったり、失ってしまった乳房をふたたび取り戻すための乳房再建術などを行っています。

各科の先生がたや病院スタッフと綿密な連携を行い、質の高いチーム医療に取り組んでいます。



左から：中村亮太医師、兵藤伊久夫部長、奥村誠子医長

平成25年度公開講座のご案内

がんセンター中央病院・研究所では毎年5回程度、一般の皆さんを対象とした公開講座を行っています。会場の多くは名古屋市中心部です。事前申込は不要ですので、気軽にご参加ください。今年度のスケジュールやテーマの発表は5月～6月を予定しています。発表に併せてホームページ(<http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>)に掲載します。



検査・治療待ち日数のお知らせ

がんセンター中央病院を受診してから検査や治療を受けていただくまでの待ち日数を疾患別にホームページで公開しています。日数はおおよその目安ですので、実際の検査や治療がこの通りに実施されない場合があります。また、緊急を要する場合はその限りではありません。

なお、この情報は1カ月ごとに更新しています。

<アドレス>
<http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/02shinryo/taiki.html>
 (中央病院トップページ上部にアイコンがありますのでそれをクリックしてください。)



外来診療案内

受付時間	午前8時30分～11時30分 (自動再来受付機による受付は午前8時からできます。)
休診日	土・日・祝日、年末年始
診療科	消化器内科、呼吸器内科、循環器科、血液・細胞療法科、薬物療法科、頭頸部外科、形成外科、呼吸器外科、乳腺科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、皮膚科、眼科、放射線診断・IVR科、放射線治療科、緩和ケア科(精神腫瘍科・リンパ浮腫外来・ペインクリニック)、専門外来(禁煙外来・糖尿病内科)
外来診療担当一覧	毎月1回、月初めに更新しています。 詳しくはホームページをご覧ください。
休診情報	お電話またはホームページでご確認ください。
ホームページ	http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/

※再診予約制:診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。052-764-2911(直通) 午前9時～午後5時(土・日・祝・年末年始を除く)
 ※セカンドオピニオン外来は、全科に対応しています。(完全予約制・自由診療)
 ※精神腫瘍科及び禁煙外来は、予約のみの対応です。

交通のご案内

★公共交通機関のご案内

地下鉄利用 名城線「自由ヶ丘」駅2番出口から徒歩7分
 市バス利用 基幹2系統・星丘11系統「千種台中学校」下車徒歩4分

★車でのアクセスのご案内

- ◎一般道路
 本山交差点から北へ約10分、平和公園の北西
- ◎高速道路
 東名高速道路「名古屋IC」から西へ約15分
 名古屋高速「四谷出口」から北へ約10分

※詳しくはホームページをご参照ください。



愛知県がんセンター Tel.(052)762-6111 Fax.(052)764-2963

〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号 ホームページ <http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>

愛知県がんセンター

検索